

紀伊の地も馬が駆ける

Horses run through the land of Kii.



2023 7.15 (土) ▶ 9.3 (日)

- 開館時間：9:00～16:30 (入館は16:00まで)
 - 休館日：毎週月曜日 (7月18日火)
 - 入館料：一般 190円 (150円) / 大学生 90円 (70円)
- ()内は有料入館者20名以上の団体料金
 ※高校生以下、65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方および県内在住の留学生は無料 (要証明書)

※基本的な感染症対策にご協力をお願いします。
 詳細は [https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011900/d00213264.html] を参照してください。

和歌山県立紀伊風土記の丘

〒640-8301 和歌山市岩橋 1411 TEL 073-471-6123 FAX 073-471-6120
 HP/www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp Email/kofun@kiifudoki.wakayama-c.ed.jp

木曾馬 (木曾馬の里開田高原)



ホームページ

主な展示品

○古墳時代のウマ達

東大阪市日下遺跡のウマ 大阪府教育委員会蔵

田原本町唐古・鍵遺跡のウマ 田原本町教育委員会蔵

和歌山市鳴神VI遺跡のウマ 和歌山県教育委員会蔵

○ウマが運んだ物

和歌山市西庄遺跡の製塩土器・漁労具 和歌山県教育委員会蔵

橿原市新堂遺跡の製塩土器 橿原市蔵

○馬具

和歌山市大谷古墳の馬膏・馬具（複製品） 和歌山市立博物館蔵

和歌山市大谷山22号墳の馬具 和歌山市蔵

和歌山市伝岩橋干塚出土（土手形塚）の馬具 和歌山大学蔵

鞍・鐙（中世）谷井コレクション 当館蔵

○馬の造形物・絵画

和歌山市大日山35号墳の馬形埴輪 和歌山県教育委員会蔵

和歌山市川辺遺跡・太田・黒田遺跡の土馬 和歌山市蔵

藁駒・土馬（嵯土馬） 当館蔵

徳川吉宗筆「野馬之図」 和歌山市立博物館蔵

今から約1500年前、古墳時代の日本列島ではウマの導入によって交通革命が起こりました。ウマは各地で移動、運搬に用いられ、東日本では広大な牧で飼育も行われました。また、有力古墳の埋葬施設には馬具や胡籛が供えられたことから、ウマを使役に利用しただけでなくその保有自体が被葬者の軍事力やステータスを示したと考えられます。

紀伊では、5世紀初め頃にすでにウマ・ウシが飼われていたことが発掘された骨や歯からわかります。特に製塩、漁労を行った海辺の遺跡（西庄遺跡）では多くの骨や歯が出土しており、ウマ・ウシが塩や海産物の運搬に用いられたとみられます。このようにウシもウマと同様に、この時期の交通革命の一翼を担ったとみられます。

本展では、古墳時代と古代・中世までのウマと関わりのある考古資料、発掘された当時のウマの骨や歯などの遺存体、そして、近世以降の歴史資料や民俗資料などを通じて、ウマと人がどのようにかかわってきたのかを紹介します。

関連行事

展示講座②

学芸員による講座及び展示解説

7月16日 日
13:30～15:30

対象：小学生以上
定員：30名（先着順）
参加方法：6/30 金 13:00～予約受付開始
参加費：入館料＋資料代